

校長室だより第 17 号（令和 7 年 7 月 14 日）

『着衣水泳を行いました。』

水泳学習が大きな事故もなく、無事に終わりました。毎年、日本のどこかで、水泳学習中の事故のニュースが流れているので、無事に終わって、本当にホッとしています。

すべての学年の水泳学習が終了するのを待って、5 年生が『着衣水泳』を行いました。

『着衣水泳』とは、文字通り服を着た状態で水泳を行うことです。（6 年生とつばさ学級も予定をしていたのですが、台風等の影響で中止となってしまいました。残念ですが、仕方ありません）

皆さんもご存知の通り、夏になると水の事故が多発します。昨年の夏には、全国で 488 件の事故が発生し、242 人の方が尊い命を失いました。海で水着を着ていて事故にあう方も多いのですが、水遊び・釣り・魚とり等で事故にあう方も非常に多いのです。

水遊び・釣り・魚とり等を行っている時には、普段着の場合が多いはずです。特に小学生は川で水遊びをしている時に、深みに足を取られ、パニックになって溺れてしまうことが多いそうです。パニックになった上に、洋服を身に着ているので思っているようには泳げず、もがいているうちに体力が消耗し、死亡事故につながってしまうのです。水泳の授業ならば余裕で泳ぐことができるはずなのに。

そこで、『着衣水泳』です。まず、洋服を着たままプールに入ります。水着の時とは違って、体の重さを感じるはずです。そして、軽く泳いでみます。うまく泳げないこと、長い距離は泳げないことが実感できるはずです。

だから、無理に泳いではいけないことを知り、慌てずに、力を抜いて上手に浮かぶ体験をします。また、洋服と体の間に空気を入れると浮きやすいことやペットボトルがあると浮力が増すことも体験します。

事故に遭わないことが一番良いのですが、もしものために、自分の生命を守る術を学んでおくことが大切です。